



越流許容型堤体越流ため池工法は

大型土のうや補強土工法を用いたため池堤体で

堤体の一部で越流を許容する機能を持つ

新しいため池堤体の構造・構築技術です。



独立行政法人
農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
National Institute for Rural Engineering

越流許容型 ため池工法

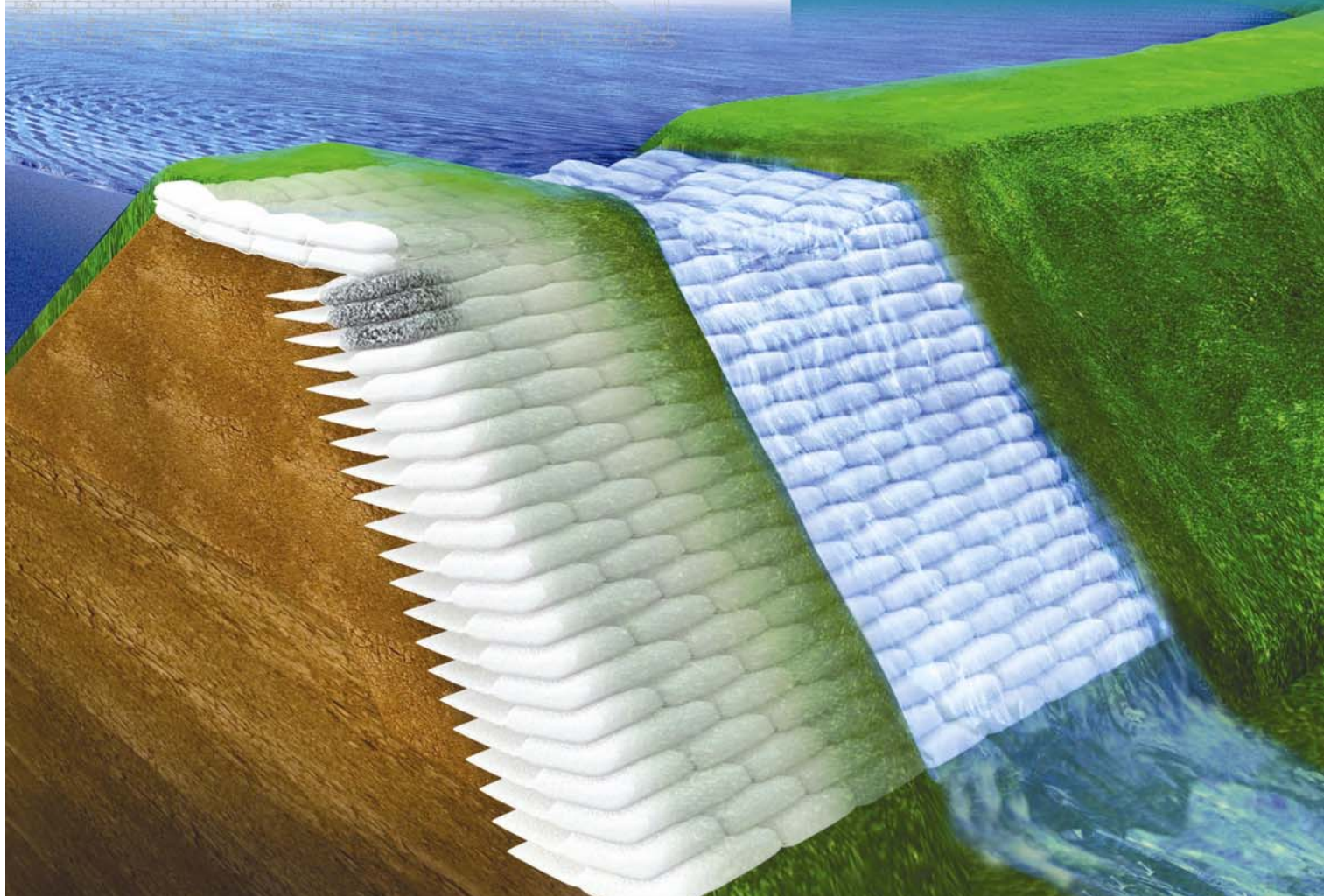


●優れた防災機能

- ・豪雨、洪水時の安全性
- ・地震時の安全性

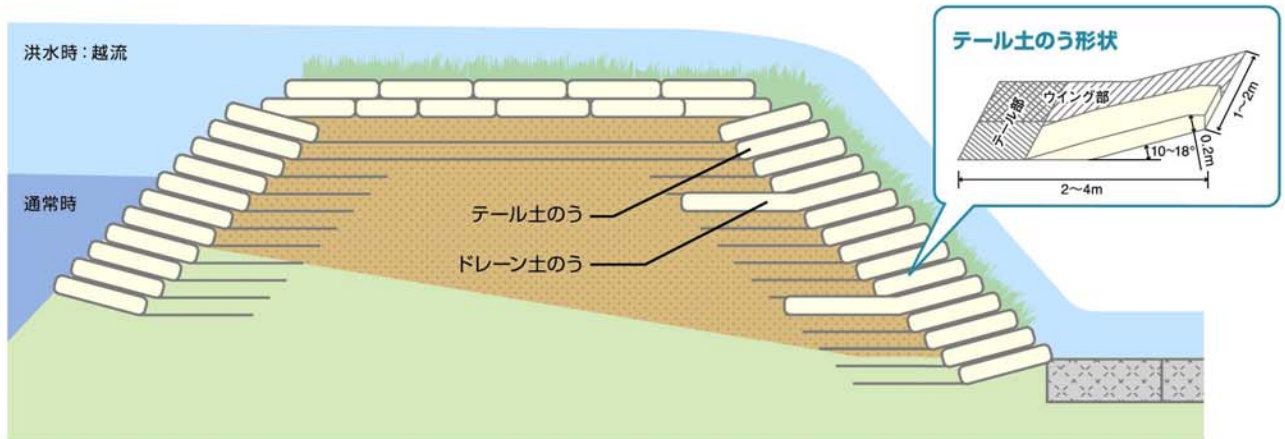
●設計・施工

- ・付帯施設(洪水吐・取水施設)の合理化
- ・堤体断面の縮小
- ・コスト縮減



概要

全国には21万箇所のため池が存在し、改修が必要とされる老朽化の進んだため池は約2万箇所あります。台風などの集中豪雨によって、ため池が決壊した時には、下流域に大きな災害が発生する危険性があります。越流許容型ため池は、特殊な土のうを用いることによって、豪雨時に発生する越流に対して高い耐久性を持っています。さらに、地震に対しても安全です。



施工状況



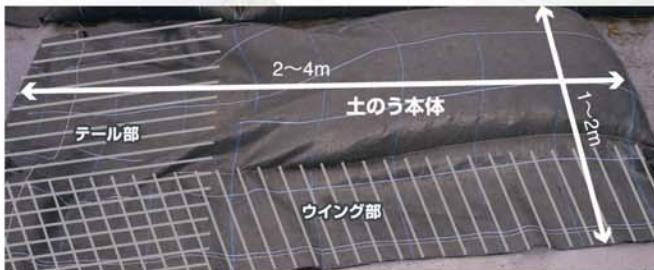
築堤状況



土のうの作成



土のうの転圧



テール土のう



越流部

本工法は農林水産省「官民連携新技術研究開発事業(H14~H20)」の認定を受け、(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所と、三井化学産資(株)、東電設計(株)、(株)クボタで組織した新技術研究開発組合との共同研究により開発したものである。(特願2004-240318、特願2005-239074、特願2005-239056、特願2006-33232)

お問い合わせ・・・



独立行政法人
農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究所 施設資源部土質研究室
 National Institute for Rural Engineering

【住所】〒305-8609 茨城県つくば市観音台2丁目1番6号
 【TEL】029-838-7575 【FAX】029-838-7609

